

第2回ワークショップを開催しました。

- 日時 令和5年2月22日(水) 18:30~20:30
- 会場 国際交流会館 4階 第3会議室
- 参加者 16名
- ワーク
 - 前回のふりかえり
 - 景観をより良くするための考え方
 - 熊本市の景観をより良くするためのアイデアを考えよう

前回のふりかえり▶
「熊本市の景観の現在を知ろう」



景観をより良くするための考え方

景観の感じ方は人それぞれですが、良い景観には「きれい」「地域の個性が感じられる」「居心地が良い」「安心感がある」など多くの人の共感を得る共通点があります。

良い景観をより良くするために、以下の5つの考え方と景観形成の主体について整理しました。



グループワーク講評 (グループワークの詳細は別紙参照)

今日のワークショップでは、景観をもっと分かりたい、子どもたちに伝えたい、という話が良く出ていた。また、他の区がどう思っているのか調べるために情報を発信したり、ツールを使ってシミュレーションをしたりする話も出た。

新しい技術を活用すること自体、ワクワクさせるし、いろんなことが動き出すきっかけにもなる。そういう風な景観づくりも楽しい。



▲原田和典先生
(崇城大学)



▲田中智之先生
(熊本大学)

A班 イベントや情報発信など別々に考えそうなことを重ねていく、結果的に楽しみながら知って、長期的に見て景観が良くなるメカニズムの可能性を感じた。

B班 歩行者天国や、歩道を広くすること、建物のルールを見直すなど、まちをもっと自由にしていくことが、人々とまちとの接点を増やすことにつながり良い循環になる。「自由に」が大事なことだと思った。

C班 夜にゴミ収集すれば、朝の景観が良くなり、カラスもいなくなるし、まちも美しくなっていく。一石二鳥の考え方が面白いと思った。

ワークショップと言いながら、行政に対する要望を並べることが多いが、今回参加のみなさんは、自分たちで何が出来るか、身近なところで何からスタート出来るか、仲間をどう増やしていくかという視点でのご提案が多く、そして印象に残った。

景観計画には、いろんなルールをどう運営していくか、また、もっと良くしていくにはどうしたら良いのかといった市民協働の内容を記載することになる。今日出していたアイデアはそれを充実させるものが多く、嬉しく感じた。



▲星野裕司先生
(熊本大学)

グループワーク

「景観をより良くするための考え方」を踏まえながら、維持・保全・改善のためのアイデアを考えました。
また、出されたアイデアについて、主に誰が（市民、事業者、行政など）担うとよいか、協働のあり方を含めて話し合いました。

A

▼Aグループ
話し合い風景



◀発表風景



発表風景▶



発表風景▶



Bグループ▼
話し合い風景



C

▼Cグループ
話し合い風景



◀発表風景



発表風景▶



景観の形成と向上

個人でできる緑化

- 自分の家の庭を緑化する
- 自宅の緑の手入れ
- 日頃からの除草、庭の手入れ
- 学校区ごとに「緑化コンテスト」を行う

- 市民誰もが自由に花や木を育てることができる「みんなの花壇」を設置する (マンションやアパートの住民でも花を育てることができる)
- 貸しガーデン制度

建築のルール作り

- 熊本城の眺望を邪魔しないように建物の色や形に気を遣う

- 古町、新町、水前寺、二本木あたりは建築のルールを決める (町家風の景観と見通しを創る)
- 高い建物を減らす
- マンション・アパートの高さ規制エリアの設定
- 新しい建物を建てる際に規制を求める

看板のルール作り

- 看板のデザインを統一する (アミューズラザみたいな)
- デザインコンペを実施し、市民が審査しては?

エリア価値の向上

- 水前寺は景観が崩れている
- 統一感があるといい
- まち (エリア) のイメージ共有 (商業地、歴史文化エリアなど)

- 古いまちなみの保全
- 龍田西小からの夜間の眺め
- バイパスの夜景

まちなみと調和した建築物

- 通りごとの特色を
- 下通 (にぎやか)
- 上通 (落ち着き) 間接照明を用いる
- 道に面する建物はセットバック
- 安っぽいビルを建てない美学を、ディベロッパ等に植え付ける

- まちなか再生プロジェクトの活用と周知 (まだ件数が少ないため)

長期的な再開発

- 長期的な再開発 (土地をとりまとめ、新しい街をつくる)
- 歩道を広く

公共空間の維持管理

- 花と緑を街中に
- 憩いの空間づくり
- 道路や公園のメンテナンス (土木センターの役割)
- 熊本市の交通機関と植栽を楽しむ (市電+緑) (飛行機+城)

熊本港の整備

- 熊本港付近を開発する
- クルーズ船が入港できるように

熊本城の整備

- 長堀前の坪井川沿いのスペースに、立ち入ることができるようにしてほしい

安全・安心

- 自転車レーンの整備 (木を切らない)
- ハザードマップの無料配布
- 広告を掲載 (win-win)
- 暗がり、死角をなくす!
- 街中で人目が届かない場所の改善

美化活動・環境保全

地域でできる美化活動

- ゴミは持ち帰る
- 落ち葉やフンの清掃 (お金を払って住民みんなで)
- 自分の住まいの周りを綺麗に清掃
- 京の「門掃き」(敷地に面した道路の真ん中まで、両側は隣との境界を一尺超えた所まで) に学ぶ
- 住民活動でまちをキレイに
- 交流、地域コミュニティの活性化

- 公園等にゴミ箱を設置 (実験)
- 月1回、公園清掃の日を設定し習慣化 (インスタで共有)

鳥害対策

- カラスが来る、鳥のフンが多い
- 木を切る原因となっている

- 朝のゴミを無くす (福岡市のように夜間ゴミを回収してはどうか)
- 電線の鳥よけは見栄えが悪い
- 鳥害対策の研究が必要

熊本城の桜を守る

- 天守閣以外の要素を守ったり、見えたりするとよい
- 桜が枯れたら新しく植えられない

環境保全

- 江津湖で生き物とりをやる
- 汚泥の攪拌で水がきれいになる
- ボランティアによる環境美化活動

街路樹の適切な管理

- 街路樹を守りたい
- イチョウの葉とギンナンの清掃

- 裸みたいな木をなくす
- 切ってほしい木などを誰でも気軽に報告できるサイト
- 投票 (「いいね」数) で意見を聞く

イベント仕立ての活動

- 競争心、地元愛、燃える...
- ボランティアだけではなく、楽しめるようにメリットを!
- イベント化、プレゼント
- イチョウを拾った人を、「ぎんなんパーティー」にご招待
- ゴミ集めスタンプラリー (ゴミを集めてスタンプをためて景品?)

- ゴミ袋の無料配布
- ゴミのポイント制
- 市全体で景観を意識する取組み (町対抗で...)
- 一斉清掃の日を大々的に盛り上げる (ビフォーアフターコンテスト)
- 常にきれいな地区は殿堂入り

表彰制度や補助金の整備

- 広告はOOH (out of home) メディアアワードを創設し、いい広告をほめる

- 建築物設備修景補助金
- 景観とマッチした建築のアワードをつくり、社会的にほめる

空間の活用

空き家・空き地の活用

- 空きテナントを活用したアート作品の展示

- 空きテナントを市民 (大学生など) に貸し出す
- 空きテナントのシェア化 (高額な賃料をシェアできないか)

- 空き家のホテル (オランダのような) としての活用
- 責任の所在は?
- 空き家を活用したコミュニティ施設とかチャレンジショップ

効果的な情報の発信

SNSの活用

- ハッシュタグで情報拡散!

- イチオシ・イマイチ景観を広く募集
- 親しみやすい話題から入るなど、発信の仕方を工夫する

「リアル樹種図鑑」の作成

- 庭木選び等に活用できる
- スマホでマップを見ながら樹種探しラリー

- 樹種の実物を確認できるように「リアル樹種図鑑 (マップ)」を作成
- 実際の樹木にはQRコードが設置してあり、木の説明が読める

効果的な情報発信、共有

- 市民が google 情報を書く → 共有

- 素敵な表紙の広報誌!
- 冊子、HP、市政だよりと連携
- ビジュアルで見せる!
- 街を3Dでスキャンし公開する
- 新しくできる建築物の見える化

空き地情報の発信

- 自由に使っていい場所のマップを作成、発信する

- やっていいこと (BBQ、ボール遊びなど) の発信

景観意識の啓発

地元を知る (景観教育)

- 熊本歴史探訪マップ (市民は意外と歴史を知らない?)
- 小さなもの、古いものが大事にされている (名前、由来...)

- TVで熊本の歴史コーナー

- 景観教育 (総合学習) の継続

意識啓発

- 住民が地域のことを学ぶ
- 地域の景観を学ぶ
- 地域ごとにどんな景観にしたいかテーマを持っておく
- 地域の良さがなくなっている

- 景観教育 (総合学習) の継続
- 市民の意識を高める

子どもが楽しめる仕掛け

- 子どもが楽しみながら景観を考えられる仕掛けがほしい

- サクラマチ屋上で交流イベント

- 子どもは「景観」を知らない
- 今の子どもたちは地図が読めない
- 天守閣内の見たいポイントにスタンプを設置 (スタンプラリー)
- 「SHIROIKU」(子どもとお城に泊まる) の復活!
- 他校の生徒と交流